

フェンシング・全日本学生王座決定戦

女子フルーレ優勝

関東・関西学生リーグ戦の代表校が出場するフェンシングの全日本学生王座決定戦(6月7日、京都府大山崎町体育館)で、女子フルーレが優勝を果した。

【出場メンバー】▽高橋風子主将(商4・聖霊女子短大付高)▽川村理紗(商4・揖斐高)▽安部夏帆(商3・聖霊女子短大付高)▽菊池小巻(商1・翔陽高)

準決勝は中京大に45-22で圧勝し、決勝に弾みをつける。決勝の相手は引き戻されたのが良かった。今後はもっと個人の能力を伸ばして、失点を減らしていきたい。誰を出しても勝てるチームにならなくて、戦い方の幅をもっと広げたい」と語った。また、女子サーブは4位となった。

高橋主将は「決勝の法

▼ 2位となった近藤(左端、表彰式で)＝撮影・斉藤葵



レスリング・全日本選抜選手権

グレコ71kg級 近藤が2位

中村(フリー57kg級)、松尾(フリー70kg級)は3位

レスリングの全日本選抜選手権(リオ五輪・第二次選考)が6月19日から21日まで、代々木第二体育館で行われた。グレコローマンスタイル(以下グレコ)71kg級で近藤雅貴(経営4・八幡浜工高)が2位、フリースタイル(以下フリー)57kg級で中村倫也(商3・花咲徳栄高)、同70kg級で松尾侑亮(商2・いなべ総合学園高)が、いずれも3位となった。

近藤は決勝で第1シードの選手と対戦。第1ピリオド序盤、相手の力強いフリーに動じず、投げ技を決め4-2で第2ピリオドへ。攻撃をしのいでいたが、ビッグポイントを奪われ、4-8でホイスルが鳴った。

近藤は「勝ちにこだわることが大切だった。詰りが甘かった」と反省し「天皇杯優勝、国際大会で結果を残したい」と今後の目標を挙げた。

佐藤満ヘッドコーチは「全体で前年度よりも力がついてきている。結果が自信につながる」と大会を振り返った。

松井、武田が優勝

東日本学生春季新人戦



▲ 決勝で攻勢に出る武田＝撮影・岡野

(6月24・26日、駒沢体育館)はグレコ59kg級で松井涼(商2・岐阜工高)、同80kg級で武田光司(経営2・埼玉栄高)が優勝。フリーでは武田が86kg級で優勝した。

男子グレコの最優秀選手に必要な体力をつけていくと抱負を語った。

またフリー74kg級では松尾が準優勝、同70kg級で吉井誠(経営2・岐阜工高)が3位となった。

(岡野春経 3)

野球・全日本大学選手権

優勝の早大に惜敗 ベスト8

夢の大学日本一まで、あと一歩届かなかった。全国26連盟の代表で争う全日本大学野球選手権が6月8・14日にかけて神宮球場を主会場に行われ、専大は準々決勝で惜敗し、ベスト8だった。

26年ぶりの出場となった専大はシードスタート。初戦となった京都学園大戦は、リーグ戦から間が空いたにもかかわらず、試合感覚の鈍さを感じ

させない試合運びで勝利を取った。次戦となった準々決勝の早大戦は、平日にもかかわらずOB・OGも駆けつけ専大スタンドは超満員。緊迫した空気に包

まれる中、専大を引っ張ってきた先発・大野亨輔(商4・星稜高)は立ち上がりを攻められ2点を奪われてしまう。二回以降を抑えると四回表、1

均衡が破れたのは八回裏。好投していた大野が無死で走者を出し、リーグ戦で何度もピンチを救ってきた高橋礼(商2・専大松戸高)に交代するも失点。九回に粘りを見せ1点を返すも、3-4で惜敗した。

しかし、東都リーグの代表として戦った姿は躍動感にあふれ、他大学に負けない輝きを放っていた。

あと2カ月足らずで秋季リーグが始まる。さらに輝きを増した「新生専大野球」が東都で輝く。

(飯塚恒成・文2)

V旋風

卓球・関東学生選手権

男子単 厚谷

男子複 田添健・郡山

女子複 鈴木・安藤

6月26・28日、所沢市民体育館で関東学生卓球選手権が行われ、男子シングルスで厚谷武志(商

4・駒大附小牧高)が優勝、同ダブルスで田添健汰(商2・希望が丘高)・郡山北斗(経営1

・関西高)組が優勝、松浦佑紀主将(経営4・武田高)・北原大輝(経済

3・専大北上高)組が準優勝、女子ダブルスで鈴木李茄(商3・青森山田

高・安藤みなみ(商1・慶誠高)組が優勝し、「専大旋風」を巻き起こした。

の北原を4-1で降す。明大の有延との決勝は接戦となったが最終セットは5点に抑え、4-3で勝利し、頂点に立った。

同ダブルス決勝は田添・郡山組、松浦・北原組が激突。田添が「相手が先輩でも思い切ってるだけ」と郡山との抜群のコンビネーションで専大

対決を制した。女子ダブルスでは「エースコンビ」鈴木・安藤組が実力を存分に発揮。準決勝は第1セットを奪われるものの、その後3連勝でセットを取り決勝へ。決勝は相手を寄せつけず3-0のストレートで貴緑の優勝となった。

また、関東学生卓球新人選手権(5月23、24日、和光市総合体育館)は女子シングルスで安藤が優勝。男子シングルスで郡山が準優勝。同ダブルスで郡山・田添響(商1・希望が丘高)組が3位に入った。

国際大会でも活躍

ITTFワールドツアーフィリピンオープン大会(5月27・31日、フィリピン・スービック湾)で男子ダブルスの田添健・郡山組が準優勝と結果を残した。

郡山は「初めての国際大会で、先輩に任せきりになってしまった。あと少しで優勝できたので悔しい」と振り返った。

また、U-21男子シングルスで田添が3位に入った。

(阿部理志・文3)写真

専大スポーツ

No. 352

大会結果 予定は体育会ホームページ「専大ホームページ」から確認ください
専大スポーツ編集部 web(http://sensuppo.web.fc2.com/) 大会結果を配信しています

▶ さらなる飛躍を誓う 部員たち



▶ 同点弾を放ち、笑顔でダイヤモンドを一周する秦＝撮影・齊藤麻莉奈



▶ 田添健汰(右)・郡山組



▶ 鈴木(左)・安藤組